

基本情報					
教科・科目	世界史探究	・授業で使用するもの 教科書「詳説世界史」 授業ノート「授業用詳説世界史整理ノート」 iPad（ロイロノートで小テスト・課題等を配信）			
担当者	永田 宏樹				
評価割合（試験：試験外）	試験：6 試験外：4				
年間を通じて教科で培う力	鍛錬（知識及び技能）	各単元の歴史的事象の知識を理解することができる。			
	理知（思考力・判断力・表現力等）	歴史的な知識を用いて、各事象の原因と結果を自ら説明することができる。			
	探求・叡智（主体的に学習に取り組む態度）	歴史的事象への知識・理解によって、従来の学説に疑問をもち、自ら問いを設定・考察し、提案していくことができる。			
学習情報					
月	単元（学習）目標	単元目的（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法 ポイント
4 5 6	①文明の成立と古代文明の特質 ②中央ユーラシアと東アジア世界	①自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係に着目し、文明成立の基盤を理解する。 各地の古代文明の立地や特徴を比較し、文明が成立・発展する条件とその多様性を捉える。 ②騎馬遊牧民の活動と農耕社会との関係に着目し、中央ユーラシアの歴史的役割を理解する。 中国王朝の変遷と周辺地域との関係を踏まえ、東アジア世界の秩序形成とその特質を考察する。	①・古代オリエント（メソポタミア、エジプト） ・古代インド（インダス文明） ・古代中国（殷、周） ・南北アメリカ文明 ②・中央ユーラシアの遊牧民族（スキタイ、匈奴） ・中国史（秦、漢、魏晉南北朝、隋、唐） ・東アジア史（朝鮮、日本）	・講義 ・「授業用詳説世界史整理ノート」を使用した学習 ・小テスト	・授業内課題 ・小テスト
6	定期試験① 令和8年 6月3日－6月5日				
6 7	③南アジア世界と東南アジア世界の展開 ④西アジアと地中海周辺の国家形成	③仏教の成立をはじめとする宗教の形成と社会との関係に着目し、南アジア世界の構造を理解する。 南アジアの統一国家の展開とあわせて、東南アジアが外来の文化を受容しつつ独自の国家や社会を形成していく過程を、多面的に捉える。 ④古代オリエントから地中海世界に至る諸国家の成立と統治のあり方を、自然環境や交易との関係から理解する。 ペルシア・ギリシア・ローマの相互関係や支配の仕組みの違い、さらにキリスト教の成立と広がりに着目し、広域世界の形成過程を捉える。	③・仏教の成立 ・南アジアの統一国家（マウリヤ朝～ヴァルダナ朝、地方王権） ・東南アジア世界の形成 ④・ペルシア帝国（アケメネス朝、ササン朝） ・ギリシア人の都市国家（ポリスの成立、ペルシア戦争～ヘレニズム時代） ・ローマと地中海支配（共和政、帝政、専制君主制、文化） ・キリスト教の成立と発展	・講義 ・「授業用詳説世界史整理ノート」を使用した学習 ・小テスト	・授業内課題 ・小テスト
7	定期試験② 令和8年 7月15日－7月17日 範囲				
9 10	⑤イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ⑥イスラーム教の伝播と西アジアの動向	⑤イスラーム政権の成立と拡大を、宗教と政治の関係に着目して理解する。 ゲルマン人の移動やビザンツ帝国の展開、封建社会の成立を通して、ヨーロッパ世界の形成過程とその特質を多面的に捉える。 ⑥イスラーム教が諸地域へ広がる過程を、交易や人の移動と関連づけて理解する。 西アジアやイベリア半島の動向に着目し、イスラーム世界の一体性と多様性、地域ごとの展開を考察する。	⑤・イスラーム政権の成立と発展（ムハンマド、ウマイヤ朝、アッバース朝） ・ヨーロッパ世界の形成（ゲルマン人・ビザンツ帝国・封建社会の成立） ⑥・イスラーム教の諸地域への伝播（タラス河畔の戦い、ムスリム商人） ・西アジアの動向（マムルーク、イラン＝イスラーム文化） ・イベリア半島の情勢	・講義 ・「授業用詳説世界史整理ノート」を使用した学習 ・小テスト ・課題レポート	・授業内課題 ・小テスト
10	定期試験③ 令和8年 10月21日－10月23日 範囲				
11 12	⑦ヨーロッパ世界の変容と展開	⑦教会の権威や十字軍、商業の発展と都市の成長に着目し、中世ヨーロッパ社会の構造とその変化を理解する。 封建社会の動揺や王権の強化、文化の展開を関連づけて捉え、中世から近世への移行過程を考察する。	⑦・教会の権威（教会改革運動、叙任権闘争） ・十字軍とその影響 ・商業の発展、中世都市の成立（遠隔地貿易、定期市、都市同盟） ・ビザンツ帝国の統治 ・スラヴ人と周辺民族の自立 ・封建社会の衰退（貨幣経済、教会大分裂、中央集権化） ・西ヨーロッパ諸国の動向（英仏百年戦争、イタリア政策） ・西ヨーロッパの中世文化（12世紀ルネサンス）	・講義 ・「授業用詳説世界史整理ノート」を使用した学習 ・小テスト	・授業内課題 ・小テスト
12	定期試験④ 令和8年 12月9日－12月11日 範囲				
1 2 3	⑧東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ⑨大交易・大交流の時代 ⑩アジアの諸帝国の繁栄	⑧宋を中心とする東アジア諸地域の動向を踏まえ、各地域の自立化と相互関係を理解する。 モンゴル帝国の拡大と支配のあり方に着目し、ユーラシア規模での交流と秩序の変化を多角的に捉える。 ⑨明・清期の中国や東南アジアの動向と関連づけて、ヨーロッパの海洋進出の展開を理解する。 交易の拡大や商業革命・価格革命が各地域の社会や経済に及ぼした影響を考察し、世界の一体化の進展を捉える。 ⑩オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の統治と社会の特徴を理解する。 清朝と周辺地域との関係も含め、多様な民族や宗教を包摂する広域帝国の支配のあり方を比較し、近世アジア世界の特質を考察する。	⑧・アジア諸地域の自立化と宋（北宋、遼、金、南宋） ・モンゴルの大帝国（チンギス＝ハン、フビライ） ・イスラーム勢力の動向（ティムール朝、サファヴィー朝） ⑨・中国史（明・清） ・東南アジアの動向 ・ヨーロッパの海洋進出（コロンブス、コンキスタドル） ・世界の一体化（商業革命、価格革命） ⑩・オスマン帝国、サファヴィー朝（スレイマン1世、アッバース1世） ・ムガル帝国（アクバル、アウラングゼーブ） ・清と隣接諸地域（康熙帝、雍正帝、乾隆帝、キリスト教宣教師）	・講義 ・「授業用詳説世界史整理ノート」を使用した学習 ・小テスト ・課題レポート	・授業内課題 ・小テスト
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日－3月6日 範囲				